

保育所自己評価

平成 30 年度 笛吹市立石和第三保育所

A：たいへんよい B：よい C：一部検討を要する D：改善を要する

I 子どもの発達援助

I-1 子どもの発達援助の基本

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育の全体的な計画を基本方針に基づき作成している。	① 保育の全体的な計画の作成には職員が参加している。	B
	② 地域の実態や保護者の意向などを考慮して、保育の全体的な計画を作成している。	A
	③ 保育の全体的な計画を保護者に説明している。	B
(2) 指導計画の評価、検討を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	① 各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B
	② 日常の保育を通して子どもの思いや気持ちを汲み取りながら、指導計画に反映させている。	B
(3) 各年齢の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある。	① 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある。	A
	② それぞれの子どもに関する情報を周知している。	A
	③ 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話しあうためのケース検討を必要に応じて実施している。	A
<p>【特記事項】</p> <p>●「保育の全体的な計画」についてはリーダー職以上会議の中での話し合いに留まっている為、職員全員での参加となっていない。また、年度当初に保育の全体的な計画を各家庭に配布しているが、それについての詳しい説明をもつ機会をつくるのが難しい。補うために園だより等にて日々の保育状況知らせるように努力してきた。</p> <p>●一斉的な保育、やらされる保育を脱皮し、子ども達の主体性を重視した柔軟な保育に切り換えていきたい思いは強いが、今までの保育からなかなか脱皮できていない。引き続き、主な計画をベースにしつつ、そこから枝分かれしていく柔軟性を持たせた保育に展開できるよう、保育士のスキルアップを図っているところである。</p>		

I-2 健康管理

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	① 健康に関するマニュアルがあり、職員に周知し、実施している。	A
(2) 乳幼児突然死症候群（SIDS）・感染症等を予防する仕組みがある。	① マニュアルがあり、それを活用している。	A
	② マニュアルに基づき、保護者へ感染症の予防策及び対応について周知している。	A
<p>【特記事項】</p> <p>○看護師を主とした発信と指導に努め、予防対策は講じられており、園児の健康管理は適切に行われている。</p> <p>感染症の予防が徹底されていた為、巷で感染症が流行した時も、集団感染することはなかった。また、感染症に罹患した児が発生した場合や、巷で感染症が流行している時期は、「家庭と園児の健康管理シート」にて家族全員の健康状態をも把握することで、園内における感染を防ぐことができたのではないかと感じる。</p>		

I-3 食事

小分類	評価項目	評価結果
(1)食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している。	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	A
	②落ち着いた環境で楽しく食事ができるように工夫している。	A
	③食事の状況に基づき、調理内容を改善している。	A
(2)アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	①アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
	②間違いがないように個別のプレートかトレーなどで分け、栄養士同士や保育士と確認している。	A
(3)文化・習慣の違いなどの個別に配慮した食事を提供している。	①保護者の申し出により、個別に対応している。	A
<p>【特記事項】</p> <p>●エビパンを持参してきている園児が1名、誤食をした時に服用するアレロックを保管している児も3名いた。誤食が命取りになる場合もあることから、常に細心の注意を払って給食提供をしてきた。</p> <p>情報の共有化と関係者同士の連携により、誤食は0件であった。</p>		

I-4 保育環境

小分類	評価項目	評価結果
(1)子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	①園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している。	B
	②屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	B
(2)生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	①生活の場面にあった保育者の声、音楽など音に配慮している。	C
	②園内に、子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	B
<p>【特記事項】</p> <p>●老朽化した園舎、未満児には不向きな保育環境、隣小学校グラウンドからの砂ぼこり等、どうしてもできない環境下の中ではあるが、できるだけきれいな状態をつくれるようにクラス担任が努力していた。また、日々のヒヤリハット報告を受けて改善できるものは早急に改善し、安全な保育環境に配慮してきた。</p> <p>●清掃においては徹底できない部分も多い。個々の価値観の相違もあるが、気になった時にはその都度注意している。</p>		

I-5 保育内容

小分類	評価項目	評価結果
(1)子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	①子どもに分かりやすい温かな言葉遣いで、穏やかに話している。	C
	②子どもの要求や訴えに対して、子どもの気持ちを受け止め、状況に応じた適切な対応をしている。	B
(2)子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に活動できるような環境が整備されている。	①基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	A
(3)子どもが様々な活動を自由に体験できるような環境が整備されている。	①子どもが様々な活動を自由に体験できるような環境が整備されている。	B
(4)身近な自然や社会とかがわかるような取り組みがされている。	①身近な生活体験の中で、命の大切さや季節感など、豊かな感性を育むような配慮をしている。	A
	②生活や遊びを通して、数・量の感覚が身に付くように工夫している。	B

	③散歩や行事などで、子どもたちが主体的に地域の人に接する機会を作っている。	A
(5)様々な表現活動が体験できるように配慮されている。	①身体等を使った様々な表現遊びが取り入れられている。	A
	②様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている。	A
	③絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
(6)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	①けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子どもたちのプライド、自立性を尊重し、子ども同士で解決するよう援助している。	A
	②順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。	A
	③広く社会性が身に付くよう、異年齢の子ども達や様々な年齢層の人達と交流している。	A
(7)乳児保育のための環境を整備し、保育内容や方法に配慮をしている。	①離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮している。	A
	②一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	A
	③顔を見合せてあやしったり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	A
	④特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A
(8)長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	①長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	A
(9)障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	①保護者の理解のもと、障がいを持つ子の関係機関、医療機関等との連携を図り、必要に応じて助言・援助を受けている。	A
	②障がい児が園生活を送るために、必要に応じて園の子ども達や保護者に障がいを理解できるような言葉がけをし、配慮している。	B
(10)積極的な健康増進の工夫を遊びの中に取り入れている。	①いろいろな運動遊びを工夫しながら取り入れている。	A
<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乳幼児期に経験させておきたい様々な活動をバランスよく取り入れられるように配慮し提供している。 ●施設の老朽化と設備上の問題により、乳児保育室に相応しい環境を用意することができないが、今、ある環境の中でできることを考え工夫して環境設定に努力している。 ●「日々の忙しさの中にいると、言葉遣いが強くなり、子どもの気持ちを受け止めきれていないこともあり、保育終了後に反省することが多い。」というのが現場からの反省点。客観的に見ても感じることもある為、その都度、本人に指摘することもある。保育のプロとして正していきたい。 ●子どもの主体性を重視した保育、子どもが自由に遊べる環境という点において、戸外遊びやワークショップの環境構成に配慮するようにした。ここで、ワークショップという観点和管理者側と現場とでは相違があったようだ。共通理解を図りながら、保育環境に工夫を凝らしていきたい。 		

I-6 入所児童の人権尊重

小分類	評価項目	評価結果
(1)子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	①子どもが自分の思いや意見をはっきり言うことができるよう配慮し、それを尊重している。	B
	②一人ひとりの子どもの心身の状態、生活習慣や文化、家庭の事情、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てている。	A
(2)性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	①子どもの態度、服装、遊びなどで性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	A

(3) 外国籍や帰国子女の子どもに対して、適切な配慮がなされている。	①日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるよう、努力や工夫をしている。	B
(4) 保育中の子どもの人格尊重を意識している。	①保育者は、子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A
<p>【特記事項】</p> <p>●PRの少ない子、手がかからない子、目立たない子というのは、比較的、自分の思いを表出してこないため見逃しやすい。この類の子ども達に対してきちんと関わっていたかが疑問として残る。</p>		

Ⅱ 子育て支援

Ⅱ-1 入所児童の保護者の育児支援

小分類	評価項目	評価結果
(1) 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加えて、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	A
(2) 家庭の情報や情報交換内容が必要に応じて記録されている。	①個別面談記録をとっている。	A
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて、関係職員に周知されている。	A
(3) 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	①保護者会・懇談会などを定期的で開催し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	B
(4) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めている。	①保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	②虐待児の早期発見の仕方についてマニュアルがあり、全職員に周知している。	A
(5) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供している。	①「園だより」や「クラスだより」など定期的に発行している。	A
	②クラスごとの保護者会・懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を行っている。	B
(6) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしている。	①あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	②保育参加・保育参観の機会を随時受け入れている。	B
<p>【特記事項】</p> <p>●行事については、毎年見直しを図り、保護者負担を軽減することを配慮する一方、過去の流れ（PDCAのサイクル）の中で、園の環境等、考慮したうえで保護者参加行事等を設定してきた。その結果として現在の行事等が絞り出されていることを考えると、しばらくは現状維持で進みたい。</p> <p>●保護者参加型行事への参加が保育参観の機会とも捉えて、保育参観は設定していない。（園の環境上、無理も生じている）行事が単発に実施されるのではなく、保育活動のつながりの中で展開でき、かつ子どもが主体的に活動できることを目標としている。</p> <p>●園からの情報発信は、園だより、クラスだより、連絡帳、掲示板、ホームページ内ブログ等を通して具体的にできるように努めている。</p>		

Ⅱ－２ 地域の子育て支援

小分類	評価項目	評価結果
(1) 育児相談やふれあい体験保育など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	①いつでも育児相談ができる体制が整っている。	B
	②リーフレットやポスターなどを作成し、積極的に子育て情報の提供をしている。	C
	②地域における子育てニーズを把握して子育て支援を実施している。	B
<p>【特記事項】</p> <p>●同福祉会で運営しているはなぶさふれあい児童館と連携をとる中で、子育てについての情報発信を行っている。また、毎週土曜日午前中、園庭開放を実施。この場を利用して育児相談につながることも多い。また、保育園見学もこの時に行うようにしている。</p> <p>●とはいえ、この園庭開放が地域住民に周知されていないことも課題。情報発信方法について検討していきたい。</p> <p>●地域民生委員、児童委員と連携を図る中で情報を得るように努めているが、詳細までの把握は難しい。課題としていきたい。</p>		

Ⅲ 地域との連携

Ⅲ－１ 保育園の役割を果たすために必要な地域の関係機関・団体との連携

小分類	評価項目	評価結果
(1) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力依頼するなどの配慮をしている。	①園外向けの掲示板やポスター等で園の様子や行事などについて、地域の人々に見てもらえるようにしている。	C
	②地域の人々に向けた保育園や子どもへの理解を得るための日常的なコミュニケーションを心がけている。	A
(2) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮されている。	①保護者が就学に向けての子どもたちの生活について見通しを持てるように配慮されている。	B
(3) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている。	①育児相談などに際して、専門機関と相談や連携ができている。	A
(4) 保育園の活動や行事に地域の人々の参加を呼び掛けるなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。	①子どもが職員以外の人々と交流できる機会を設けている。	A
	②ボランティア・体験保育の人々を積極的に受け入れている。	A
	③児童館の利用者に対して行事参加の呼びかけをしている。	A
	④他の保育園と交流する機会を設けている。	B
<p>【特記事項】</p> <p>○地域の中で育つ保育園、地域に愛される保育園を目指していることから、「民生委員、老人クラブとの交流会」「園児祖父母参観」を実施してきた。地域の人達と顔見知りになることから、散歩先でも声をかけてくださることが多くなっている。民生委員には毎月園だよりも郵送し、保育内容について関心を寄せていただけるように配慮している。</p> <p>○笛吹市自体が保育・教育に熱心な市であるので、気になる児に対しての関係機関との連携が取りやすい体制がある。</p>		

IV 運営管理

IV-1 基本方針

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育所の保育理念及び基本方針を明文化している。	①保育理念を年度初めに職員で確認している。	A
	②基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	B
(2) 保育理念や基本方針を職員や保護者などに周知するための取り組みを行っている。	①職員や保護者などに見やすい場所に掲示している。	A
	②保護者会や配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している。	A
【特記事項】 ○次年度の民営化に伴い、保育理念の見直しをすすめてきた。職員にも問いかけ、関心を寄せてもらうようにしてきた。結果として、本園では「笑顔」がベースにあることは共通認識されてきた。輝く笑顔を引き出す保育の実践に努めている。		

IV-2 組織運営

小分類	評価項目	評価結果
(1) 保育の質の向上や改善のための取り組みを職員参加により行っている。	①保育の質の向上や改善のための取り組みについて、意図的・計画的に実施している。 →保護者アンケート結果からの改善、月間要録からの改善等。	A
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	①施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A
	②施設長は、質の向上に意欲をもち、その取り組みに指導力を発揮している。	A
(3) 運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証、見直しをしている。	①運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証、見直しをしている。	B
(4) 非常勤職員と連携を取るための取り組みがなされている。	①非常勤職員の意見を聞いたり、話し合う機会を定期的に持っている。	A
	②非常勤職員へのアンケート（自己評価）がある。	A
	③非常勤職員と連携をうまく取るために担当職員が決まっている。	A
【特記事項】 ●職員各々が責任をもって保育に従事できていることが、組織がうまく回っていることに繋がっていると考ええる。 ●園長と職員一人一人との面談を実施し、個々の仕事に対する想い、姿勢、悩み、戸惑いを確認することができた。この面談をベースに次年度の組織編制を検討した。		

IV-3 人材育成

小分類	評価項目	評価結果
(1) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	①各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	A
	②園内研修を行っている。	A
【特記事項】 ○研修計画に基づいて計画に実施。 ○キャリアアップ研修受講により職員のスキルも向上している。特に、日保協主催の東京での二泊三日の研修は内容が充実していて、多くの学びがあり、その後の職員のモチベーションが上昇している。		

IV-4 安全・衛生・危機管理

小分類	評価項目	評価結果
(1) 事故や災害に適應できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	①マニュアルは、全職員がすぐに手に取り、見ることができるところにある。	B
	②職員への周知方法として、全職員にマニュアルが配布されている。又は研修や訓練が行われている。	B
	③外部からの侵入に対する対応を実施している。	B
(2) 安全管理のマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されている。	①緊急時に慌てず対応できるよう、医療機関等の連絡先を表示している。	A
	②毎日又は定期的にチェックが行われている。	A
(3) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	①事故防止、安全管理のためのチェックリストが作成されている。	A
(4) 調理場、水回りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	①日頃からチェックリストを使った点検、確認等が行われている。	A
(5) 水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような危機管理体制が整備されている。	①マニュアルは、全職員がすぐ手に取り、見ることができるところにある。	B
<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎日、昼礼にて、ヒヤリハット・事故報告をあげ、全職員に周知すると共に、意識変革を図っている。 ●昨年度の反省点から、各マニュアルに基づいた研修計画を立案し、職員会議等の中で、定期的に読み合わせをしたりして周知させていった。 		

IV-5 守秘義務の遵守

小分類	評価項目	評価結果
(1) 守秘義務の遵守を全職員に周知している。	①保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	②保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
<p>【特記事項】</p> <p>○遵守されている。</p>		